

日米文化交流会



第18航空団広報局

去る2月25日、防衛省沖縄防衛局主催による日米交流事業「いちやりばちよーでー 日米文化交流会・Japan-U.S. Friendship Day」が開催されました。



(写真全て、米空軍：ラギーシャ・クローリー二等軍曹撮影)

この交流事業は在日米軍施設周辺住民と在日米軍人・軍属との相互理解を深めることを目的とし開催されており今年で3回目を迎えます。本年度はプログラムの内容を4つのパートにわけ海兵隊基地視察、空軍基地視察、事件・事故防止に関する意見交換、そして文化交流の場が設けられました。日本側からは沖縄市・北谷町の周辺住民の方々を中心に60人余の方々が参加されました。

嘉手納基地の視察では、第18航空団と第18憲兵中隊の概要説明があり、特に第18憲兵中隊は、生活指導巡回（Courtesy Patrol）やリバティーカードなど嘉手納基地で実施している軍人・軍属が事件 事故を起こさない 巻き込まれないようにするための予防策やK D A P（嘉手納基地綱紀粛正アクションプログラム）など軍属が違反行為を起こさないよう指導したり、しかし残念ながら違反行為をしてしまった者に、それに対する嘉手納基地独自の処罰を科すことができるプログラムなどの説明がありました。



嘉手納基地視察のあと会場を沖縄市へ移し、地元参加者の中から選ばれた代表者と各軍からの代表者が参加し、事件 事故防止に関する意見交換が行われました。

最後に、米軍施設周辺住民・各軍関係者合わせて約200人が参加し文化交流会が催されました。第3海兵遠征軍音楽隊による演奏が披露されたり、米軍人参加者にたこ焼き体験をしてもらったりと様々な形の交流の様子がありました。文化交流の目玉は各軍から参加した米軍人ボランティアによる琉球舞踊、空手演武、三線演奏そしてエイサーの披露でした。ボランティアの方々は勤務の合間をぬって約2週間、週2回2時間の練習に参加し当日を迎えました。とても短い練習期間だったにも関わらず、ボランティアの皆さんは驚くほどの成果を見せて会場を沸かせました。

陸軍から参加していた女性らは琉球舞踊を披露しました。もともとアロハダンスを練習されていたらしく、沖縄の農作業のようすを表した雑踊りを、観客の手拍子とともにハワイアンオキナワンのしなやかさでのり良く踊っていました。嘉手納基地からは三線演奏に4人のボランティアが参加し、安波節を演奏しました。「サンシンが大好き」というだけあって、縦書きの九九四を見ながら、ほんの2週間の特訓とは思えないほど、しっかりとした音がでていました。教えていた沖縄の師匠らもその上達ぶりに感心しきりでした。

挨拶に立った第18任務支援群司令官コンスタンティーン大佐は、このような交流の場を提供した沖縄防衛局に対して感謝の言葉を述べるとともに、「沖縄にはたくさんの祭りやイベント

がある。積極的に出かけて行き地元の人々との交流を楽しんでもらいたい」とこれからの交流にも期待すると述べました。

